

# 銀の笛

栗原公子句集

ふらんす堂

佳きことの

ひそみてをらむ

初曆

本句集の巻頭を飾る句であるが、栗原さんがこれから歩もうとしている俳句の道が明るく膨らんでいくような期待を感じさせる句である。

序・能村研三

佳きことのひそみてをらむ初暦

包丁に水垂直に当てて夏

白毛布目覚めてもなほ夢を追ひ

大寒やわが生れし日も母の忌も

銀の笛欲し全山を芽吹かせむ

陽炎の入り口ペダル強く踏む

青芝に手をつき野外音楽会

月光も編みこみ鳥瓜の花

勇氣欲しぱんと叩いて山椒の芽

全力のつもり私とかたつむり

小鳥くる携帯電話に小さき窓

風花や胸に灯ともす言葉抱き

砂時計の時は銀色クリスマス

椿落つ大事はいつも突然に

病名を告げられし日の夜の長し

目瞑ればおのづと禱り虎落笛

病む夫に寒紅あはく逢ひに行く

覚悟てふ錨しづむる冬三日月

虎落笛平常心てふもろきもの

冬木の芽生存率てふ数字ふと

安堵にも不安にも吐く息白し

退院へ余さず春の灯をともす

月涼し葉より効く言葉あり

詩から死へ想ひのめぐる星月夜

水澄むや平穩無事といふ不安

嬉しき日待つ冬薔薇はまだ蕾

初孫はふたり  
児冬日燦々と

朧の夜われにも  
欲しき心柱

心憂き日や  
絹莢に細き糸

あぢさゐが  
好き音たてぬ  
雨が好き

なにごとくも神の一存大夕焼

生も死も眠りのつづき明け易し

自由とは涼しかりけり寂しかり

朝寝する自由夜更かしする自由

哀しみのフラッシュバック春の雷

この街が終の住処よ花水木

鈴つけし新しき鍵風薫る

短夜や夫の香のなき部屋に座し

薫風となりたまひしか夫よ夫よ

流さるる幸せもあり浮寝鳥

眠りさへすれば明日くる冬の雨

しやぼん玉吹く口笛を吹くやうに

白 薔 薇 万 年 筆 の 水 洗 ひ

涼 し かり 星 座 は 花 の 名 を 持 た ず

誰 も み な 遺 さ れ し も の 水 澄 め り

小 鳥 くる 明 る き 詩 を 詠 へ よ と

色鳥や宛名想ひて選る切手

台風来すこしわくわくしてゐたり

淋しさの正体冬の薔薇に棘

元旦の空たふとくて退屈で



ふらんす堂俳句叢書  
Série du rouge

句集 銀の笛 ぎんのふえ

二〇一六年一月三〇日 第一刷

定価：本体二八〇〇円＋税

●著者——栗原 公子

●発行者——山岡喜美子

●発行所——ふらんす堂

〒一八二一〇〇〇 東京都調布市仙川町一―一五―三八―二F

TEL 〇三・三三三六・九〇六一 FAX 〇三・三三三六・六九一九

ホームページ <http://furanudo.com/> E-mail [info@furanudo.com](mailto:info@furanudo.com)

●装幀——和 規

●印刷——株式会社トヨ―社

●製本——株式会社新広社

※丁・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN978-4-7814-0790-6 C0092 ¥2800E

著者略歴

栗原公子（くりはら・きみこ）

昭和18年 東京都生

平成13年 NHKカルチャースクール能村研三教室入会

平成14年 「沖」入会 能村研三に師事

平成18年 「沖」同人 俳人協会会員